

明石川と共に生きる～日常の中の外来生物～

西岡龍之介、中村颯希、弓削朱花梨(玉一アクアリウム)

私たち玉一アクアリウムは、玉津第一小学校の在校生と卒業生の約30名が在籍しています。1年を通して1週間に1度以上は明石川水系に入り水生生物や植物を調査・捕獲して、在来生物はリリースし外来生物はリリースせずに駆除をして命の大切さを考えて調理をして美味しくいただいたり、肥料にして新鮮な野菜や果物を美味しくいただいています。

外来生物の命が私たち人間の命の一部になることで、生き物全体のつながりを実感しています。

私たちは以前から神戸市環境局と協力してアカミミガメの防除活動もしています。

1年に1回カメ用の仕掛けカゴを3日間連続で設置するのですが、数年前の出来事で、事前のアクアリウムの調査で明石川支流の田中川のある1ヶ所だけアカミミガメがとても多くて「今年はここだ!!」と決めました。

当日は、神戸市環境局の方や自然回復の谷口さんたちも来てくださって、カメ用の仕掛けを設置していると地域の方が来られて「良かった！これで臭くなくなる」と喜んでいました。魚のアラを持ってくる人がいるような感じでした。

次の朝に仕掛けを見に行くと仕掛けを陸に上げられてアカミミガメが入れないようにされていたり、中にはナイフか何かで仕掛けの網を切られているのもあってゾッとしました。その人に会わなくて良かったし、前の日に谷口さんから「妨害されることもある」と聞いていたので心の準備もできていて良かったです。

ここにたくさんアカミミガメがいたのは、ここで餌をもらえることがわかって集まって来ていたのだとわかりました。

餌をあげている人も集まってくるアカミミガメのことを可愛いと思い、餌をあげることが毎日の日課になり楽しみになり、その人はアカミミガメが生態系に影響を与えていることはきっと知らないのだろうと思いました。

その人との争いをさけるために、私たちはその後は同じ川の近くの用水路で、その人にわからないように川の中に入ってタモ網でアカミミガメを捕獲しました。

昨年アカミミガメ防除活動では、明石川中流で3日間かけて仕掛けやタモ網で60匹のアカミミガメを捕まえて、神戸市環境局の人も驚いていました。

また、同じく田中川の水路には、数年前から熱帯魚のグッピーが生息しています。

多い時には1回の調査で数百匹も捕れていましたが、継続的に駆除をしているのでこの1年位は1回の調査で数十匹捕れるぐらいにまで数が減ってきました。

グッピーが冬を越せるのも、この水路の1部が地下に潜って暗渠になっているためだと思います。

2年前に、この水路の調査をしている時にグッピーを放流しているおじさんに会って、お話をすることがあります。

おじさんは、家でグッピーを飼っていたらとても増えて飼えなくなったので放流したそうです。

おじさんは「きれいな魚が水路にいたらいいだろう」と思って放流したそうです。

私たちは「グッピーは確かにきれいな魚だけど、グッピーがいたら今まで暮らしてきた日本のメダカの餌や住処が奪われて減ってしまうので日本のメダカや在来生物を守るためにグッピーを駆除しています」と言うので理解をしてくれて「もうこれからは放流しない」と約束をしてくれました。

しかし、その後もその水路で熱帯産の観賞用の水草などが捨てられているので、また放流しているようで心配です。

以前、田中川用水路にカダヤシがたくさんいて、それを集中的に捕獲して絶滅させたら今はミナミメダカが数千匹に増えたので、グッピーも何とかしたいと思っていますが、再放流や地下水路で苦戦しています。

外来生物の駆除を続けると、一時的にリバウンドすることはあっても順調に数が減っていました。

でもそれは、障害なく捕獲調査が続けられることが必要で、人の行為によっては思うように外来生物の数が減らせないこともわかりました。

私たちは、日本に元から暮らしている在来生物を絶滅させたくなくて、人間によって連れて来られた罪のない外来生物を駆除しています。

本当はそんなことはしたくありません。

しかし、持ち込んだ人間の責任として私たちが駆除をしています。

時に、私たちの活動について「今は正しいと思ってしている事が、本当に正しい事かどうかは後にならないとわからない」と注意を込めてアドバイスをくれる人もいます。

でも将来、今している事が正しいとわかった時に、絶滅していった在来生物たちにその人はどう責任をとるのだろうかと思います。

私たちは、自分たちがしてきたことを正しいと信じて、これからも活動を続けていきます。